

2009年4月3日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長兼 COO 福島 保
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

<第1回 中学校英語に関する基本調査(教員調査) 速報>

**中学校英語教員がもっとも大切にしているのは「英語を好きになるように指導する」こと
今後の課題は小学校英語との連携**

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)のシンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」は、2008年7月～8月、全国の公立中学校の英語科の教員 3,643名を対象に、「第1回中学校英語に関する基本調査」を実施し、英語教育の実態と教員の意識を調査しました。

2007年3月に告示された学習指導要領で、中学校英語は授業時間数が週3時間から4時間に増加し、指導語数も「900語程度まで」から「1200語程度」にまで増加しました。また、小学校における「外国語活動」が2011年から本格実施されることをうけ、小中の連携の必要性が指摘されています。こうした状況のなか、中学校英語の教員の指導実態がどうなっているのかを捉える事が、今回の調査の目的です。

主な調査結果は、以下のとおりです。

1.「生徒が英語を好きになるように指導する」ことを大切にしている英語教員が41.2%

①英語を指導する際に大切にしていることは、「高等学校やその後の生涯にわたる英語学習の基礎を培う」(24.8%)よりも、「生徒が英語を好きになるように指導する」こと。

2.校区内の小学校で行われている英語教育(活動)を「知っている」英語教員は48.5%

①校区内の小学校で行われている英語教育(活動)に対する認知度は48.5%と半分以下。
②中学校の英語教員の約8割が、小学校英語の効果として「英語を聞くことに慣れる」をあげている。

また、今回の調査からは、今後の中学校英語の指導について、大きく2つの課題が浮かび上がりました。

課題1:英語教員は、具体的な学力の育成以前に、英語学習に対する生徒のモチベーションを高めることに苦心している

⇒次期学習指導要領における中学校の「英語」の目標は、コミュニケーション能力の基礎を養うことですが、実際の指導においてはそれ以前の課題も大きいようです。これが、生徒の苦手意識・つまずきという課題にもつながってくると考えられます。

課題2:小中でのより効果的な連携を考えていくために、まず小学校での「外国語活動」に対する中学校における認知度をあげていく必要がある

⇒次期学習指導要領で必修化されることを視野に入れ、既にほとんどの小学校で何らかの英語教育(活動)が行われています。小学校での「外国語活動」は、英語の音声や表現に慣れ親しむことを重視し、コミュニケーション能力の素地の育成を目指していますが、今後は、これらの活動を経験した児童が中学校に入学することになります。

⇒そこで、中学校英語との効果的な連携を考えることが必要になると考えられますが、現状では、校区内の小学校での英語活動について知っている中学校の英語教員は半分以下であることがわかりました。より効果的な連携を行うためにも、まずは小学校での「外国語活動」に対する中学校における認知度をあげ、その上で、具体的な連携方法を考えていく必要があると考えられます。

*次ページ以降にデータの抜粋をご紹介します。

■ 調査概要 ■

時期	2008年7月～8月
方法	郵送法による質問紙調査
地域	全国
対象	全国の公立中学校の英語教員 3,643名
調査企画・分析メンバー	吉田研作(上智大学教授)、根岸雅史(東京外国語大学教授)、酒井英樹(信州大学准教授)、鈴木利彦(早稲田大学専任講師)、工藤洋路(東京外国語大学専任講師)、重松靖(国分寺市立第三中学校校長)、沓澤糸(Benesse 教育研究開発センター主任研究員)、福本優美子(Benesse 教育研究開発センター研究員)、初海真理子(Benesse 教育研究開発センター研究員)

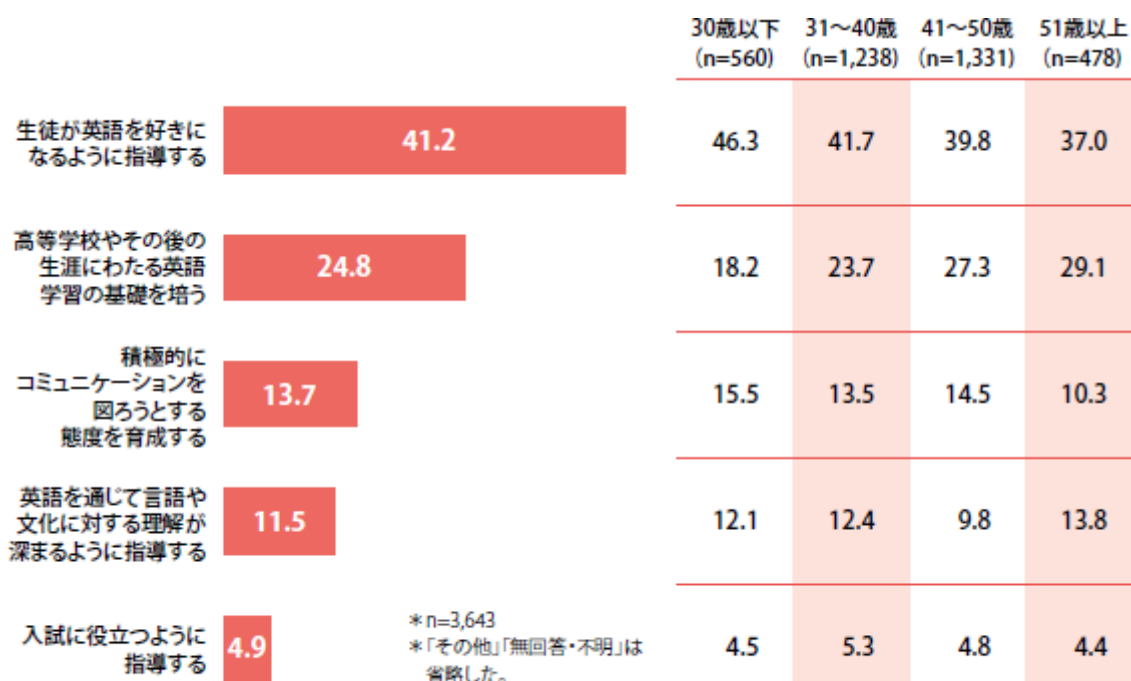
■ 調査結果概要 ■

1. 「生徒が英語を好きになるように指導する」ことを大切にしている英語教員が **41.2%**。

① 英語を指導する際に教員がもっとも大切にしていることは、「高等学校やその後の生涯にわたる英語学習の基礎を培う」(24.8%)よりも、「生徒が英語を好きになるよう指導する」こと。

【図1 英語を指導する際に大切にしていること (%)】

Q. 中学生に英語を指導するにあたって、どのようなことをもっとも大切にしていますか。



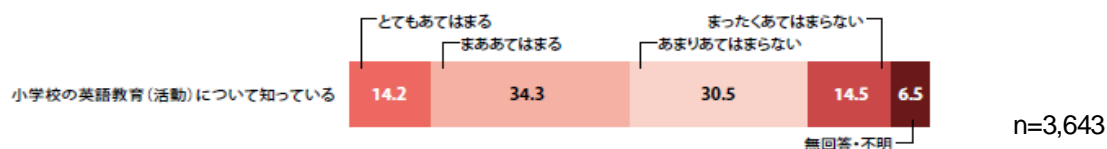
* 「30歳以下」は「25歳以下」「26～30歳」の合計。
* 「51歳以上」は「51～60歳」「61歳以上」の合計。

2.校区内の小学校で行われている英語教育(活動)を「知っている」英語教員は 48.5%

- ①校区内の小学校で行われている英語教育(活動)に対する認知は 48.5%と半分以下。
- ②中学校の英語教員の約 8 割が、小学校英語の効果として「英語を聞くことに慣れる」をあげている。

【図 2 校区内の小学校英語の認知度】 (%)

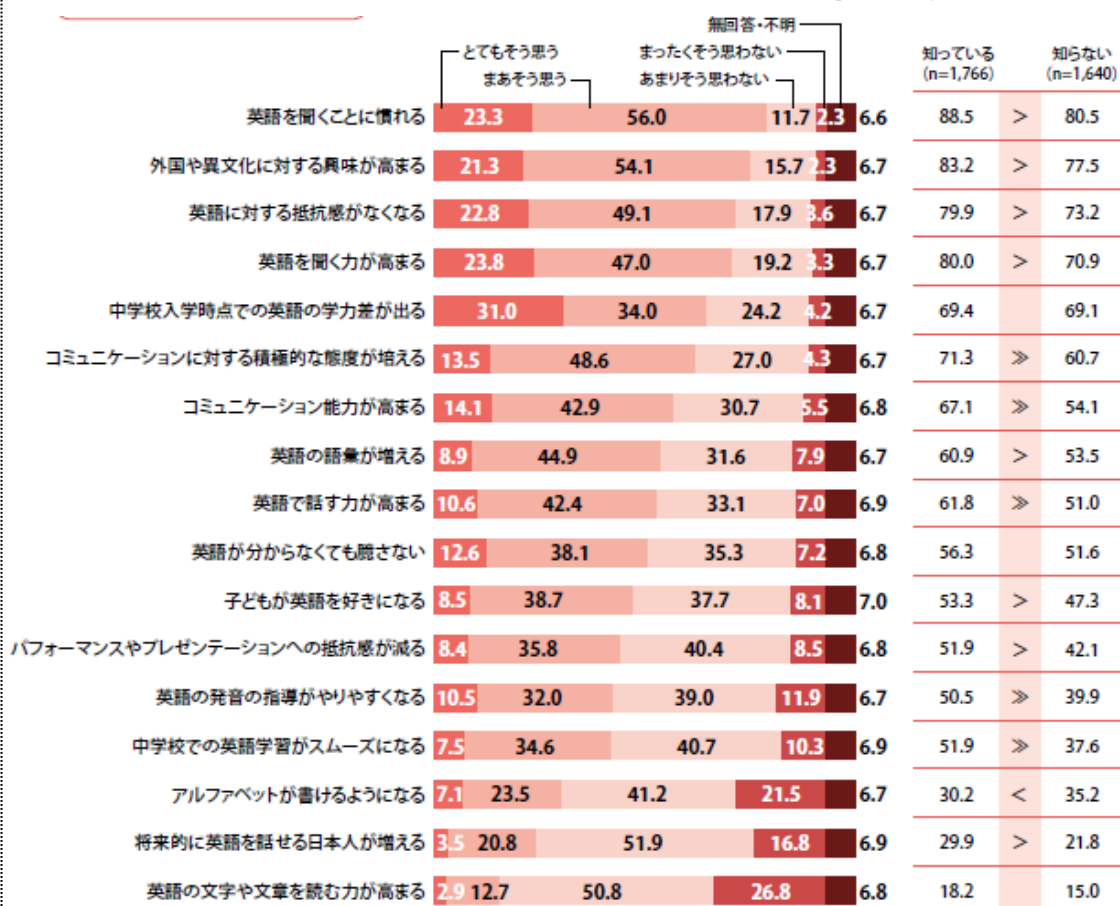
Q.貴校の校区内の小学校で行われている英語教育(活動)についてうかがいます。



【図 3 小学校英語についての考え】 (%)

Q.小学校における英語教育(活動)についてどのようにお考えですか。

*「小学校の英語教育(活動)について知っている」に対して、「あてはまる(とても+まあ)」という回答を「知っている」、「あてはまらない(あまり+まったく)」という回答を「知らない」としている。



n=3,643 *《》は 10 ポイント以上、<>は 5 ポイント以上差があるもの。

< Benesse 教育研究開発センターの活動 / Benesse 教育情報サイトでの情報提供について >

- Benesse 教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。⇒今回の「第 1 回中学校英語に関する基本調査」の詳細もこちらのサイトでご覧いただけます。
- Benesse 教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) では、ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション 広報・IR 部 (担当:坂本、濱野、西沢、十河)
電話:042-356-0657 FAX:042-356-7301